

ホ. 指 導

以上の様に該地は養魚池としての立地条件を悉く欠くため適地でないと思たが、要する自家消費用としての養魚ならば次の方法で行へば良いと思はれたので此の点毎部に亘つて説明指導した。

- 高価な餌を止めて繁殖力の旺盛なアサリを飼育すること。
- 田の畦を現在より約5寸高くし、金箱戸附排水路を設け、溜水を防ぎ福田において飼育する方法を採り経費の節減を図ること。
- アサリは熱帯魚であるから用水量は夏季は福田全面を巡回出来る程度以上とし冬季はなるべく深くし且福田面積に應じ冬越施設を行う。
- 冬越施設は早稲作其入後直ちに行う。
- 無投餌を原則とし放養尾数を限定する。
- 出来得る限り管理は充分になし、特に降雨時は必ず見廻りをなし溢水を予防する。

(二) あさり蛤養殖適地調査

勝連村南風原、南風漁業協同組合長からの要請があつて、アサリ、マガリの養殖適否について調査したがその概要次の通り。

1. 調査場所 (時図参照) 勝連村南風原、沢部落地先

中城湾の一部で勝連半島南西部に當り、泡瀬からホワイトビーチに至る干潟地帯の一部で北西に高台を控えているので静穏な地域である。

2. 調査の時 1956年4月6日 (旧暦3月1日) 正午 3時迄

3. 調査の結果

干潮時を見計つて調査したのであるが、干潮時露出部の大部分はその低質殆んど砂、砂泥の混交物で泥分少く、砂と泥の割合 20:05位の割合で底質固くその上俗称ヒツメサネ (和名不明、アサリ類似の雑藻) が砂中に根群部を網の如く張り合つて貝類の潜入を困難ならしめてゐる状態であつた。従つて在来貝の棲息も少く注水部 (淡水) の暗渠から僅かに流入する附近の砂泥混りの箇所にはイナエゴイが棲んでいるがこれは一少部分で他は皆無と云うて良い程貝類が少く稀に！コウキコウナルボウ、トワテガイ、リュウキユウヒメアサノリを見受けたに過ぎない。

該地先と泡瀬との間の南風原寄りに東方に突出せる砂丘 (満潮時没する) があるが此の砂丘と該地先との中間に干潮時1~2寸位の凹所が点在している。その面積もかなり廣い。底質は砂泥混りでその比率 20:1.5から20:5位の間にあつて底質固くなくその比率から見た場合アサリ、蛤等の棲息も可能と思はれたが、比重が1,02496もあり硬度が高くその養殖も望みがかけられない。

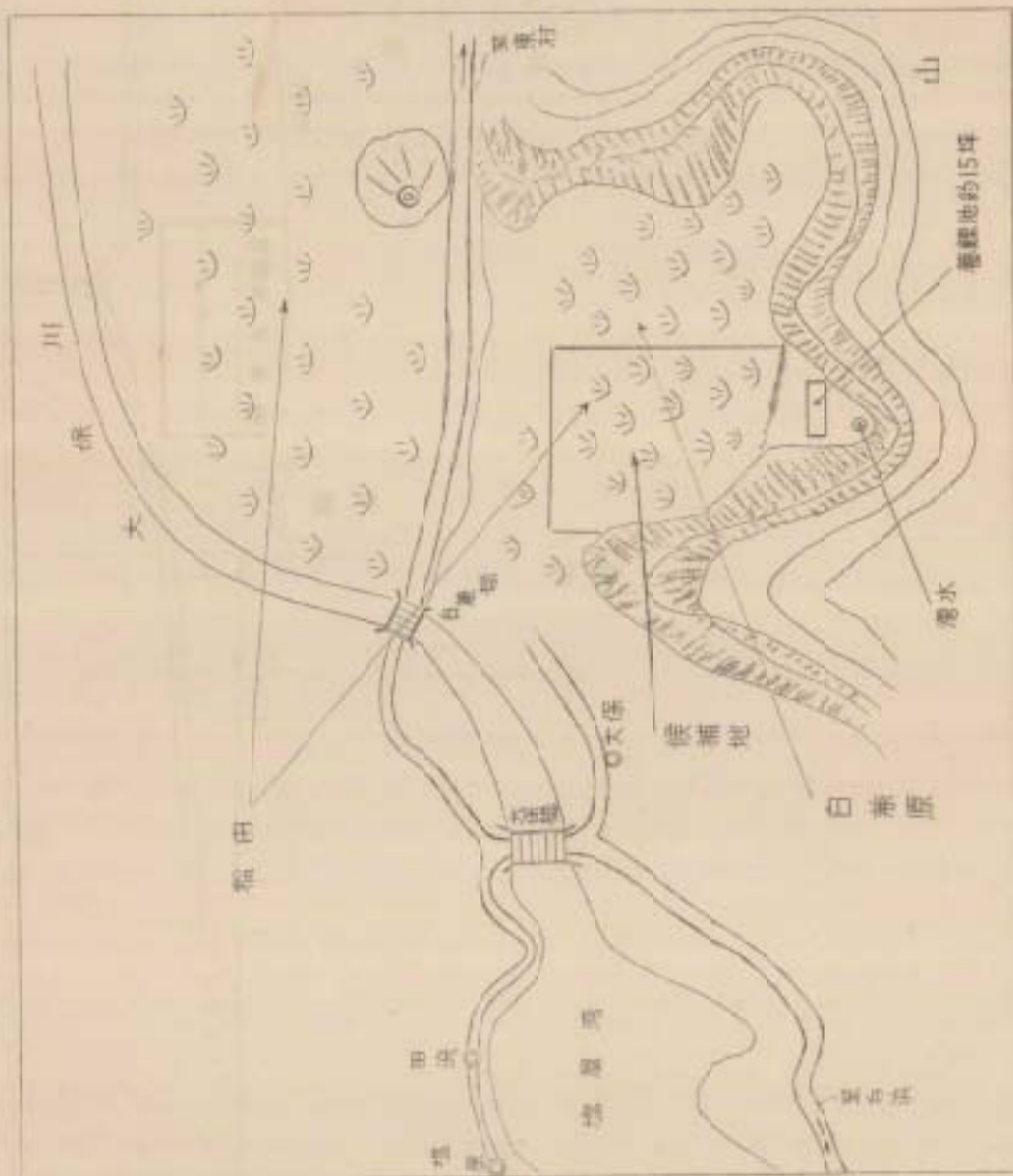
4. 結 び アサリ、蛤の適地条件として

- a. 湾内の波の静かな海水の流通の宜しきこと。
- b. 底質は軟い砂質が砂に泥分が混合したところ、砂泥の割合 9:1から 5:5のところ、最適は 5:5から 8:2のところ。
- c. 淡水が注入し比重1,015~1,024のところ。

d. 水深1~2尋で干満差甚だしくないところ等である。

該地先の凹部は a. b. d の条件は具備しているが淡水の注入なく傾度が高いので適地と云へない。以上の様な状態であつたのでその旨を述べ、比較的多く棲んでいるイナミダいの當時採捕を禁止して、時期を定めて採捕せば獲まつた生産が得られるのであろうことを説明指導した。

大宜味村塩屋區白兼原附近圖



勝連村南風原、濱部落地先略圖

